

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0373200260
法人名	社会福祉法人 慈孝会
事業所名	麗の郷「なごみ」
所在地	二戸郡一戸町姉帯字下村24-1 (電話) 0195-36-5100

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成21年1月21日

【情報提供票より】(20年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 12月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	11 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	263 円
	夕食	263 円	おやつ	64 円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1		名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名		要介護4	2 名		
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	82.11 歳	最低	72 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立一戸病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人「慈孝会」の事業の1つで、同地内に特養「慶寿園」、ショートステイ、デイサービスがあり、他5つのサービスを行っている。ホームの北側には、馬淵川が流れ景観に恵まれている。平成12年の開設であるが、手入れが行き届き清潔である。礼節と尊敬の思いが強く、利用者への接し方は落ち着きがあり、やさしく暖かい。開所時より地域との関わりを大切にし利用者、職員共地域に溶け込んだ日常を過ごしている。行事、研修、マニュアル等法人と合同で行うものが多くある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題の項目については、全員で検討し改善に向けた努力されているが、一層の工夫を期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を行い、外部評価に向けての取り組みが行われた話し合いを重ねることにより、今まで見えなかった事や、気付かなかったことが見えてくるようになった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	報告や説明に重点が置かれていたが、委員さんの提案で材料を持ち寄りで食事会が行われたり、地域の介護教室の講師になったりと、取り組みの幅が広がってきている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	電話で対応した職員の言葉に不快を感じた家族からの抗議があったが、話し合いを重ねて理解をいただいた。この件を会議の題材にして、接遇やマナーの学習を行い成果をあげた。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩の道すがら近所の住民との挨拶、会話はいつも行われており、法人の広場は夏祭りの会場として提供し、多くの地域の方々の集いの場となっている。又、家族同士の交流の場ともなっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時より法人で作成した理念を使用している。その時点から地域性(姉帯人として)を謳ってある。今後も理念に添った支援を継続していきたいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に唱和したり、「なごみ会議」(職員会議)では、議題に取り上げ意識の統一を図っている。利用者を、人生の先輩として尊敬し、日々の介護に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事には、可能な範囲で参加している。デイサービスの利用者が遊びに来たり、小学校の運動会見学、法人主催の夏祭りには、地域の方や家族が参加して盛大に交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人作成の自己評価シートで年3回評価を行っている。今回の評価も全員で2班に分けて自己評価して提出に至った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	9人の委員さん(外部の方5人)で構成されている。報告や説明が多い会議であったが、委員さんの発案で食事が開催された。	○	シーツ交換を経験していただくなど、委員さんの関わりも少しずつ増えてきているが、行政への働きかけや、要望の後押しをしていただいたり、又会議の内容によっては、メンバーの変更も方法の1つと考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の広報「せきれい」を、地元姉帯地区200世帯には各戸に年3回区長さんを通じて配布している。町の保健福祉センターとの交流もあり、ホームの行事にも協力してはただけだが、以前に比べると担当者も変わり、少し変化が見られる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの家族向けには「なごみ便り」を毎月郵送している。写真や手書きの便りを添え、遠方の家族には特に喜ばれている。小遣いは立て替え払い方式で後日、請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の定期通院(ホーム対応)に関して1件の不満があったが、2度にわたる家族との話し合いの結果、理解していただいた。家族間同士の交流は少ないが、敬老会で良い交流が図られていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の事業所で異動があれば、ホームにも影響が出てくることもある。ホームとしては異動は最小限に留めているが、いずれも法人内であるので面識もあり、利用者へのダメージは少なく済んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価の目標を記した自己管理表と、自己評価表を利用し、年2回研修をしている。外部研修を受けた職員がリーダーとなり、内部研修を行っている。各種資格試験にも法人の理解は深く、職員も意欲的に研修を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会、ブロック研修と、勤務を調整し、出来るだけ多くの機会に参加している。	○	他のホームとの交流、交換研修は日程の関係でまだ行われていない。早期の実現を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の都合で利用になった場合には、家族や、それまで関わっていた関係者には足しげく来所していただき、安心感を持っていただくように、配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや、苦しみ、不安、喜び等を知ること努め、日々の生活で分かち合い、共に支えあえる関係作り留意している。職員は、日ごろ言葉が出ない利用者との会話が成立したことに感動をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家には帰りたくないが、息子さんに会いたい人、気持ちが沈んでいる時は接する職員も同じ想いで関わる。表情から真意を推し量る努力を続けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の「なごみ会議」は夜に実施しており、家族との時間調整に無理があるので、変化があるときは個別に説明をして家族の同意を得て、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月を定期見直しの時期として、家族の面会時に状況説明と家族、本人の要望に応じた対応をしている。家族の面会は、週1回、月2回が多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養に歯科医が来所している時は、ホームから出かけて診療を受ける。音楽ボランティアと一緒に楽しむ。通院等ホームで対応できない時は、特養の職員と車を利用することも可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	県立一戸病院が協力病院であるが、かかりつけ医に通院している方もあり、家族の車で盛岡まで通院する方もある。月1回は定期通院としてホームで対応しているが、その他は家族対応もしくは家族同行を原則としている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同一法人には併設して特養があるので、重度化した場合、希望があれば移し替え可能な旨を契約時に説明している。過去には3人の方が、特養に移り看取られている。状態の変化があるごとに、本人、家族の気持ちに配慮して支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の接遇委員会がマニュアルを作成している。ビデオで研修を行い、意識の向上を図っている。本人が亡くなった後、ケース記録の閲覧を希望する家族もいることから、本人以外の利用者についてはイニシャルで記入をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表は作ってあるが、天候や体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重し対応している。散歩、足浴で安心する人、夜間目覚めた方に暖かいミルクを飲んでいただいたり、就寝時はパジャマに3人の方が自力で着替えている。日中は4人の方が卓球を楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	頂き物や、本人の希望でメニューは変更になる。調理、盛り付け、後片付けも利用者と共に行っている。月1回の通院デーには、職員は全員出勤し、外食を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は入浴を予定しているが、嫌がる方に対しては希望の方法(足浴、清拭)で対応している。夜間の希望者は現在いない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野(調理、コーヒーをいれる、洗濯たたみ)等で力を発揮していただける様に、声を掛けてお願いをし、感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、20～30分位ホームの周囲を散歩し、近所の方と話をしたり、野菜をいただいたり、交流をしている。散歩しない方はベンチで日向ぼっこしながら、「おやつ」をいただく。買い物をしながら、ドライブに出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間は玄関に施錠し、ホール入り口は日勤者が開錠している。日中は利用者の行動をキャッチし、外に出そうな利用者にはさりげなく付き添い、見守りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で夜間を想定した総合防災訓練を年2回、地域の方の協力をいただいて実施している。ホーム独自でもミニ訓練を毎月1回実施している。各居室には安全頭巾が用意してある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては法人の栄養士よりアドバイスを受けている。水分は1日1,000cc以上を目標にしている。水分を取りづらい方には、ゼリー、甘味をつける等工夫をしている。食事介助が必要な方2人、普通食5人、おかゆ2人、ミキサー食2人である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい音楽が流れ、天窓から差し込む光、調理する匂いや音など、家庭の雰囲気近く落ち着きを感じる。フロアの飾りつけも、利用者の昔の生活を思い出させる配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や絵、使いなれたソファ、ポータブルトイレ、イス等持込があり個性を感じる。「入所にあたって」のチラシに私物の持ち込み可を記載されており、口頭でも家族に伝えている。		